

2025 年第 26 週の報告です。

定点報告疾患は、**伝染性紅斑**の全国的な流行が継続中です。今週も京都府全体での警報レベルが継続、府内の保健所別では乙訓・山城北・山城南・南丹・丹後で警報が継続しています。**咽頭結膜熱**は乙訓・山城北で、**ヘルパンギーナ**が南丹で引き続き警報レベルです。ほかに**水痘**が山城南で 1.00 件報告され注意報レベルとなっています。

全数報告対象の疾患は**結核**が 10 件、**腸管出血性大腸菌感染症**が 2 件、**レジオネラ症**が 6 件、**侵襲性肺炎球菌感染症**が 1 件、**梅毒**が 5 件、**百日咳**が 23 件報告されました。

ヘルパンギーナは第 24 週に取り上げた**咽頭結膜炎**および**手足口病**とともに、いわゆる「夏かぜ」として知られる感染力の強いウイルス感染症です。いずれの疾患もウイルスの型には多くの種類があり、1 シーズンに何回もかかるケースもあります。子どもに多い疾患ですが、大人も罹患します。**ヘルパンギーナ**は突然の発熱と咽頭の水疱(すいほう)を特徴とします。原因となるウイルスは主としてコクサッキーウイルス A 群ですが、コクサッキーウイルス B 群やエコーウイルスが原因となることもあります。一般に発熱は 1-3 日でおさまりますが、水疱が破れると疼痛を伴いますので、食事や水分摂取が低下しがちとなり、脱水に注意が必要になります。口当たりのよいものなどで水分をしっかりとるようにしてください。有効なワクチンはありません。接触感染、経口感染、そして飛沫感染などで伝播するので、流水と石けんでの手洗いや、熱中症に注意しながら可能な範囲でのマスク装着などの咳エチケットを心がけましょう。また、集団生活をしている際は、タオルの共用は避けましょう。ウイルスは発症後 4 週間後頃までは便に排泄されるため、おむつ交換の後はしっかり手を洗ってください。特異的な治療法はなく、対症療法で改善するのが一般的ですが、熱性けいれんや子どもではまれに髄膜炎や心筋炎などを合併することがあるので注意してください。受診を迷った場合や夜間・休日の場合は、「[こどもの救急](#)」などの Web サイトを参照したり、#8000 (こども医療電話相談) にご相談ください。

夏の感染症対策についてはこちらをご覧ください：[夏を安全に楽しもう！感染症対策ガイド | 厚生労働省](#)